



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
<http://tsushimi.jp>

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会



シリーズ
“がん”について知っておこう

早期発見とがんのステージ

がん細胞は、正常な細胞の遺伝子に複数の傷がつくことにより発生し、その傷がついた細胞は増殖し塊となります。この異常な細胞の塊が“がん”です。

がんはさまざまな要因によって発症しますが、一般的には、タバコ(喫煙)、食生活、持続感染(ウイルスやピロリ菌をはじめとする細菌)などが原因と考えられ、また、遺伝(がんの家族歴)や環境ががんの原因となることもあります。

がんと診断されると「あなたのがんはⅠ期です」というように、医師から言われる場合があります。

Ⅰ期というのは「がんのステージ」を指します。この「ステージ」は、がんの進行の程度を判定するための基準で、分類にはさまざまな方法がありますが、国際対がん連合(UICC)の「TNM分類」がよく知られています(図1)。

TNM分類では、がんのステージを進行度によって、初期段階の0期から最も進行しているステージⅣ期まで5つに分類しています(図2)。

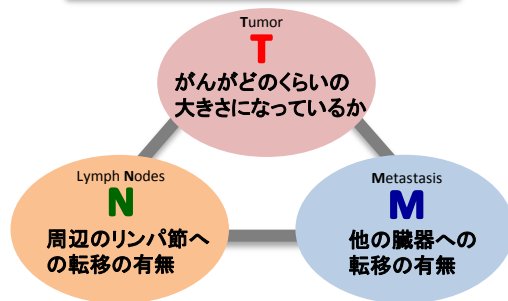
進行度を示すステージの数字が小さいほど、がんが狭い範囲にとどまっています。治療効果が得られやすいとされており、0期～Ⅰ期の初期段階で治療できれば、がんと診断されてからの5年生存率(5年後に生存している患者さんの割合)は90%以上となり、治る可能性が高まります。しかし、そのような初期段階では自覚症状がほとんどないため、発見が遅れてステージが進んでしまいがちです。がんはやはり、早期発見が何より大切です。自覚症状がないうちから定期的ながん検診を受け、早期発見し、早期治療につなげることがもっとも重要なのです。

(公財)日本対がん協会では、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年のがん検診受診者が大幅に減り、がんの発見数が減る恐れがあると発信しています。また、厚生労働省はホームページで医療機関の受診などを過度に控えれば、逆に健康上のリスクを高める恐れがあると注意を呼びかけています。

当院では、感染制御部を中心に、しっかりとした新型コロナウイルス感染症対策を行っておりますので、安心して受診、検診にお越しください。

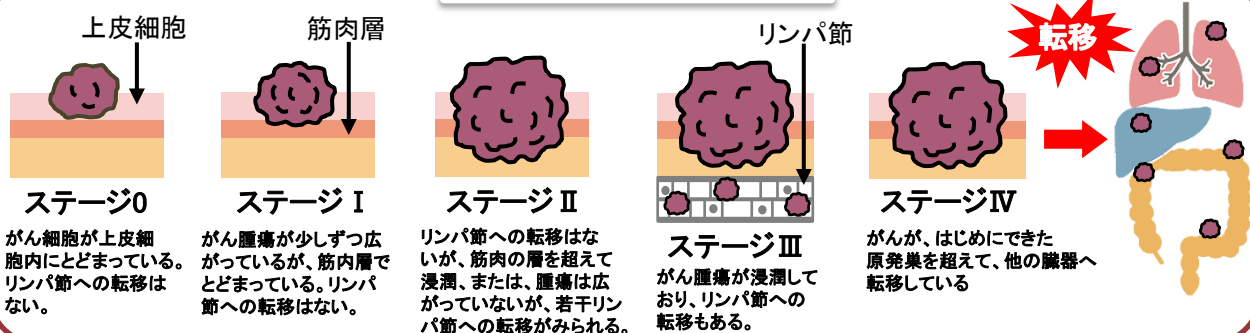
外科医師(副院長)山本達人

図1:がんのステージ判定



TNM分類では3つの要素を用いてステージを判定します

図2:がんのステージ分類



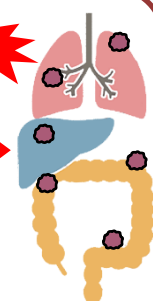
上皮細胞
ステージ0
がん細胞が上皮細胞内にとどまっている。リンパ節への転移はない。

筋肉層
ステージⅠ
がん腫瘍が少しずつ広がっているが、筋肉層でとどまっている。リンパ節への転移はない。

リンパ節
ステージⅡ
リンパ節への転移はないが、筋肉の層を超えて浸潤、または、腫瘍は広がっていないが、若干リンパ節への転移がみられる。

ステージⅢ
がん腫瘍が浸潤しており、リンパ節への転移もある。

ステージⅣ
がんが、はじめにできた原発巣を超えて、他の臓器へ転移している





新人(教育リーダーII)研修～一年間の取り組み紹介～

昨年までは、他病院の新人の方も受け入れて、多人数で新人研修を行っておりましたが、今年度はコロナ禍の為、当院の新人職員のみを対象に感染対策を行いながらの研修となりました。期間の前半は座学が主だったのですが、後半はグループワークやロールプレイ研修など、ソーシャルディスタンスをとりながら、より感染対策を行っての実施となりました。

新人職員は研修を終える度に個々のスキルアップが感じられ、「先輩職員が自分達の為に一生懸命動いてくださる姿に、感謝の気持ちでいっぱいになった」などの感想も聞かれました。指導を担当した教育リーダーレベルⅢとⅣの先輩の方々、お疲れ様でした。

来年度は新人職員も先輩となるわけですが、これからも温かい眼差しで成長を見守っていただく。
教育委員 新人担当 笠場吏沙・竹岡綾子(写真)

4月:注射技術
新型コロナウイルス感染
拡大防止対策で研修中止。
各部署での指導を行いました。



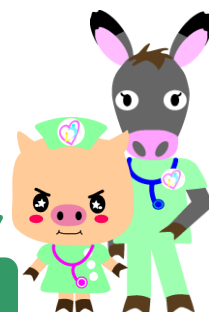
5月:経管栄養法・口腔ケア吸引法

7月:個人情報の取り扱い



8月:消毒方法・滅菌・感染予防

全集中の学び



10月:多重業務を解決しよう



11月: 医療安全



12月:急変時の対応



1月:死亡時のケアと退院



2月:看護倫理



年3回:フォローアップ研修

教育ラダーレベルⅣ発表会

2月15日(月)新型コロナウイルス感染症対策でディスタンスと換気に注意し、発表会を行いました。各部署積極的な取り組みもあり、後輩の育成にも携わっています。今後も活躍を期待しています。



外来 久保田絵美
医療従事者としての接遇マナー
(准看護学生の勉強会)

6階病棟 新堀ひとみ・
舟戸千登勢・吉原美樹
自宅退院する患者様の服薬
管理支援～服薬能力判定
(J-RACT)の評価基準を
用いて～

外来 坂本淑子・柴田純子
外来看護師の業務に対する意識改革
～外来看護師の現状・意識について～



東3階病棟 竹之内恵子・横山峰子・岡靖彦、
3階病棟 金子三喜、6階病棟 久保田逸代、
手術室 阿武恵子、外来 中村妃登江・久保田絵美
新人研修活動報告(多重業務・急変時の対応)

東3階病棟 大蔵真由美
地域包括ケア病棟における
認知症加算の取り組み

5階病棟
西村真理子・病棟スタッフ
拘縮手の清潔ケア
～ハンロドールの使用を試みて～



山口県がん化学療法チーム研修会に参加して

がん化学療法看護認定看護師 右田浩子

現在、私はがん化学療法看護認定看護師として外来点滴室で化学療法のケアを担当しております。今回、山口県がん化学療法の医療レベルの更なる向上を図るために、3月6日に山口県のがん診療連携拠点病院を含めた化学療法を行っている病院主催の研修会がコロナ禍の中、ZOOM(Web会議のアプリ)を使用して開催されましたので報告します。

4病院(県立総合医療センター・阿知須共立病院・セントヒル病院・都志見病院)が参加し、化学療法に携わる多職種チームでの症例検討を行いました。模擬となる患者様は78歳男性、現病歴、治療経過、CT画像、検査データ等が提示され、患者様へ提案できる選択肢を検討し各職種の立場で考慮できることを再検討します。問題解決のポイントは、患者様の望む治療、提案できる各治療のメリット・デメリット、不足情報は何かを考え、各チームのファシリテーターに不足状況を聞きます。それを踏まえた結果を病院ごとに発表し、他院の考え方も参考に更に検討を重ねます。今回、症例において、選択の正解・不正解を求めるのではなく、患者様自身をどれだけ多角的に捉え多職種が協働して、患者様の希望に沿った選択を患者様自身が納得して治療に向き合えるか、その過程が大事であると感じました。患者様の意思決定支援を支えることを土台として、患者様の背景を鑑み、使える社会資源の調整をし、各職種がタッグを組み、患者様に寄り添った治療を提供できるよう努力していきたいと思いました。



現代は、二人に一人はがんに罹患し、がんと共に生きる時代です。当院はこのように山口大学医学部附属病院主催の研修会にも積極的に参加し、より良い治療を皆様に提供できるようにと考えております。がん治療のことでお困りごとがございましたら、お気軽にご相談ください。

「都志見Spirit」

部署紹介



リハビリ テーション部

当院リハビリテーション部は、理学療法士11名、作業療法士3名、言語聴覚士2名で運営しております。2021年1月より、病棟の患者様へ土曜日のリハビリを開始しました。今でこそ“リハビリ”という言葉は認知されてきておりますが、期待と実情が噛み合わないといった声もよく耳にするようになってきております。

リハビリテーション技士は、卒後教育が非常に脆弱になりやすい傾向にあります。当院では、そのような事例が生じないように、院内教育に尽力していきたいと考えております。

技士は技術あつての生業ですので、“技術の研鑽無くしては成長なし”です。また、急性期病院において患者様の声を聞き、寄り添う時間を確保できる業種であります。的確なアドバイスと生活指導を心がけながら、在宅退院に向けて、入院生活をコーディネートしております。

これからもスタッフ一丸となって、患者様のパーソナルトレーナーとして活躍できるよう奮闘してまいります。



部署内勉強会の様子



運動器エコーによる発痛源評価を導入



免荷式トレッドミルによる運動療法



長装具療法を脳外科急性期治療より導入



病棟レクリエーションの実施



嚥下造影検査を実施



転倒転落リスクラウンドの実施

栄養管理部

**食べて元気になる
健康的な食習慣を身につける
食べる気持ちを大切に**

ベッドサイド訪問もさせていただきます!!



栄養管理部は、大きな3つの柱を基に活動しています。給食業務は委託となっておりますが、入院患者様の栄養管理を日々行いながら、委託会社とも協力し、安全で安心して「食べる」ことを大切にしたい給食を目指して努めております。

院内では、栄養サポートチーム(NST)や緩和ケアチーム(PCR)、褥瘡(床ずれ)チームにも参加し、多職種で協働して患者様に関わっていくことを心がけています。また、情報発信にも力を入れ、入院・外来での栄養指導のみならず、これまで糖尿病講演会(写真1)や地域の方を対象とした調理実習(写真2)、学会発表なども行ってきました。今年も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な催し物の開催や参加などは未定となっておりますが、これからは何か新しい形でも地域医療に貢献していくことができると模索しております。

当院には都志見居宅介護支援事業所や訪問看護ステーションつばき、訪問リハビリテーション室もございますので、入院や外来の患者様だけでなく、在宅の方々にも栄養に関する情報をお届けすることができればと考えています。どなたも是非気軽にお声かけください。



厨房メンバーも日々奮闘しています



1
H28開催



2
H29開催

令和3年度 新入職員紹介

今年度の新入職員です!! 皆さん、よろしくお願いいたします。



後列左から：國司、廣石、福田(正)、花岡、奥藤
中列左から：原田、片山、岡田、刀禰、好永
前列左から：林、和久、土田、中谷、福田(渚)

※ 撮影時のみマスクを外しております



新入医局員紹介

4月に入局された先生にインタビューしました。

- ①趣味は？
- ②尊敬する先生とその理由
- ③医師になろうと思ったきっかけは？
- ④もし医師になっていなければ・・・？



外科
西田 裕紀

① スポーツ全般・旅行・温泉めぐり

② 華岡青洲

世界初の全身麻酔手術を成功させたことで有名ですが、背景には何とか乳癌の根治術を行いたいという並々ならぬ情熱があり、現代の外科医も見習うべき偉大な外科医であるためです。

③ 高校生の時、進路を決めるに際して色々な職業を検討しましたが、最も興味が湧いたのが医療だったからです。

④ 若い世代を大事にできるような政治家になりたいです。

① サッカー・アウトドア・体を動かすこと

② 坂本和彦先生

大学時代から外科で大変お世話になり、昨年も下関で一緒に働かせていただき仕事からプライベートまで尊敬します。都志見病院のお話もよく伺っていました。

③ 手に職をつけ専門職として働きたかったから

④ 車や飛行機などのエンジニアに興味がありました。



外科
佐伯 晋吾

退任医師のお知らせ

亀井滝士医師(外科)・鈴木有十夢医師(外科)が3月31日付けで退職致しました。

リハビリ物品をいただきました!!

入院患者様の生活を良い環境に導けるようにと、複数の患者様より、リハビリ物品をいただきました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りして御礼申し上げます。

リハビリテーション部 一同



リハビリ歩行補助具



全天球カメラ導入によって3次元動画による住環境把握が可能になりました!



車いす用スロープの導入により、車椅子での一時帰宅が可能となりました!



No.13

リハビリコラム再開への想い

リハビリテーション部 技士長 小川寛晃

前回までのコラムではfasciaという筋膜や筋肉由来の症状について連載してまいりました。お尻の筋肉が硬くなると膝が痛くなるなど、etc...このシリーズからは、当院外来リハビリ治療において、患者様生活指導として実施しておりました内容から、リハビリコラムとして活字化を行なっていきたいと思っております。


今年1月の整形外科常勤医師の退職により、当院外来リハビリを受けたくても受けることができなくなってしまった患者様が多くいらっしゃり、大変心苦しい思いをしてまいりました。

また、コロナ禍において、外来リハビリを行うことで院内に新型コロナウイルスを持ち込む要因になるのではないかと危惧されることもありました。リハビリテーション部を取り巻く様々な背景のなか、私たちは多くの患者様に治療や生活指導を提供する機会を失いました。私自身診療の場を制限されて、自分たちの治療技術や生活指導能力は患者様の治療を介して日々成長し、さらに自己研鑽を積むことにより作り出すことができているのではないかと思います。そして、この治療感が失われてしまわないうちに、リハビリコラムとして活字化することで、多くの患者様にお届けできればと思っております。

私どもリハビリの仕事(治療)は、病気を治せるわけでも、変形した関節を治せるわけでもありません。様々なプロセスを介して患者様自身が、症状や障害とうまく付き合えるようにお手伝いをするのが仕事です。患者様に「心身から健康を感じて欲しい!」という強い信念のもと、業務に取り組んでおります。治療する手を筆に持ち替え、皆様のお悩みに応えられる連載になっていけば良いかと思っております。次号より再開いたしますのでご期待ください。

NST臨床実施研修を修了しました!!

NST(栄養サポートチーム)とは術後の栄養管理、経腸栄養剤の検討、脳血管障害後遺症の嚥下訓練や食形態の検討等のケースで栄養療法に関係する多職種が連携して患者様のサポートをするチームのことを言います。新年度からチームの一員として活動するメンバーがこの度下関医療センターにおいて臨床実施研修を修了しましたので今後の抱負をご紹介します!



看護師: 山田啓子(写真: 右)

NST研修では様々な患者様の状態に合わせて栄養管理を行っていることを知り、適切な栄養療法を提供することが患者様の回復に繋がると学ぶことができました。また、様々な専門職の協働も必要と分かりました。今後は患者様の適切な栄養管理ができるよう、学んだことを活かしていきたいと思います。



薬剤師: 柏木健宏(写真: 中央)



NST研修を終えて、多職種が情報共有・連携しつつ、患者様ごとの栄養管理にあたるのが重要だと実感しました。薬剤師としては検査値のモニタリングによって患者様の栄養状況を細かく把握し、気になる点があれば早期に他職種と情報共有し、主に輸液・栄養剤の選択や薬剤投与方法に関して適切な意見が出せるように頑張ります。

管理栄養士: 杉山陽香(写真: 左)

「栄養」というと漠然としていますが私達は生きる上で口から食べ、腸を使い健康な状態を保っています。研修では患者様の病態や嗜好等を考慮しつつ栄養状態を保つことがその後の回復状況に大きく影響することを直に学ばせていただきました。チームの中で管理栄養士として何が出来るかを常に考え、患者様に寄り添えるよう邁進してまいります。

